

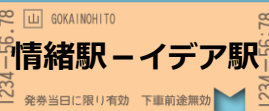
<ごかい2号>

原発は危険だといいますが、本当はどうなんですか？

学習内容の定点

アイデア駅 志の人

- 一、町の全貌を見渡す俯瞰的視点
- 二、世界観の醸成
- 三、国際的視点から偏向報道を批判

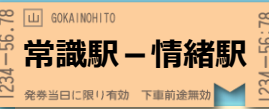


アイデア的側面：

- (1) 原発は今にも事故を起こすかもしれないといった報道に過度に影響されない。
- (2) 安全の常識を身につければ、原子力を見る目が違ってくる。
- (3) 原子力事故では人類は滅びない。
- (4) 地球温暖化問題が反原発の主張を退ける。

情緒駅 [科学+常識+情緒]の人

- 一、恐怖・呪縛という心理を分析する (アンカー効果、後光効果)
- 二、“空気”と“呪縛”に“水”を差す方法
- 三、“情緒の自由”と“共同体のルール”のバランス。多数決の原理の採用。

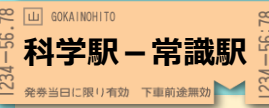


情緒的側面：

- (1) 原発は怖い：原子炉が原爆みたいに爆発するというのは誤解。核暴走は核反応を制御できるのでめったに起きない。
- (2) 放射能は怖い：施設の放射能レベルは厳重に管理されているから心配ない。人の被曝管理も厳重です。福島原発事故での放射能レベルは、健康障害をもたらすレベルではなかった。国民の過剰な対応は過剰な報道に原因がある。
- (3) 健全な見方：情緒に負ければ絶対安全を主張し、理性が勝てば相対安全で十分だと思う。人類は地球温暖化で滅びても原子炉事故では滅びない。

常識駅 [科学+常識]の人

- 一、“量”を問題にする
- 二、「日常生活に支障があるか、ないか」を判断基準にする
- 三、PDCAをまわす組織は信頼性が高い

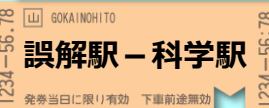


常識的側面：

- (1) 安全の常識 (1)：事故は起こさない、起こしても設備の破損だけで済む、放射能を外に漏らさない、を死守する。
- (2) 安全の常識 (2)：現在、世界で430基の原子炉が安全に運転されている。日本の原子炉はすぐにも事故を起こすようなトーンで報道されているのは大きな誤解である。
- (3) 安全の常識 (3)：大規模の安全対策が採られた現在、事故は万一起こるかもしれないが、TMI、チェルノビル事故と福島事故を越える事故はめったに起きない。メルトダウンが起きて福島を越える放射能汚染は極小化される。
- (4) 安全の常識 (4)：40年経つと原発は老朽化し危険というのは誤解。40歳までに主要機器は取り替えられ、新品になっています。外国では60年まで運転は常識です。

科学駅 科学の人

- 一、誤解の科学的側面を明確にする
- 二、市民の非科学的振る舞いの例示
- 三、科学は“判断”に関係なく、常識は“量”を問題にする。



科学的側面：

- (1) 安全性：原子力ほど安全がしっかりしているものはありません。それは安全論理と呼ばれています。そのときのキーワードは“前段否定”とそれを前提にした“多層防護”という考え方です。
- (2) 設計基準事象：設計や立地の適合性などを加味して、事故に対し住民の被曝が許容値以下になるようにします。機器の破損に関しては、安全係数を2以上にします。
- (3) 検査：運転に入る前の検査と運転後の供用中検査があり、規則に従って実施されています。
- (4) 検査頻度：毎年、10年ごと、に検査し、経年劣化の進行状況を把握します。
- (5) 組織の検査：保安規定の中に安全文化の項を設け、品質マネジメントシステムなど組織のあり方を検査します。これを守らないと事業者は罰せられます。
- (6) 総合的評価：このように原子炉の安全は二重三重に守られています。

誤解駅 誤解の人

- 一、誤解の特徴を明確にする
- 二、誤解を科学的、常識的、情緒的側面に分解する